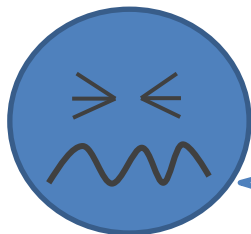


児童の実態

自閉スペクトラム症（ASD）の「人に見られることが苦手」な1年生児童で、保育園では、パーテーションの中で生活をしていた。



〈本人の困り感、思い〉

- ・大人数やざわざわした音が嫌だな。いつ終わるのかな。
- ・視線が集まる。見ないでほしい。
- ・人の目を気にしないで過ごしたいな。
- ・予定変更が苦手だな。
- ・長時間じっと座るとしんどいな。

☆本人との対話、本人の思い

- ・入学式・運動会、学校生活は、たくさんの人がいるから見られて嫌だな。
- ・人が見ていないところで生活をしたいよ。
- ・ランドセル・上靴・帽子・体操服・給食服は気持ちが悪くて嫌だな。
- ・ぬいぐるみを抱いていると落ち着くよ。

☆手立て・合理的配慮

- ・入学式は保護者も入れる段ボールの囲いを用意した。他の児童の入場前から保護者と児童は待機して出席した。入学後もこの段ボールやパーテーションの中で過ごせるようにした。
- ・上靴や帽子は慣れた外靴や色付き帽子。ランドセルも本人が納得して背負えるリュック型を提案した。
- ・持っている安心するぬいぐるみの持参を許可した。教室に安心して入れるようになるまでは、キャラクターのカードを担当が見せながら教室に誘導した。また、学級全員でキャラクターの名前を覚え、学習内容にもキャラクターを取り入れた。
- ・運動会は他の児童が運動場に行く前に、保護者と待機するよう配慮した。かけっこは担当が手をつないでゴールまで走った。持久走大会は最初だけ手をつなぐ。さわやか体育大会は、最初から一人で走る。このように、スモールステップの段階を踏むことで各行事に無理なく参加できるようになってきた。

入学式



くつ



ランドセル



帽子



お気に入りのぬいぐるみ



支援を受けてみて

- ・いろいろな行事に参加できてうれしいな。(本人)
- ・囲いなくても、運動会、持久走記録会、さわやか体育大会、ときめき学習発表会などに参加できて驚いています。(保護者)